

令和3年度 社会福祉法人オリーブの会 事業報告

メンバー、スタッフ、地域の方々、ひとりひとりの存在を大切にし、多様な価値観・生き方が尊重される環境・社会の実現を目指し、メンバーが自己決定に基づく生活が送れるように支援する。

法人内の各事業で役割を分担し、連携しながら、地域社会において多様な役割を果たせるように努める。

就労継続支援 B 型事業所 オリーブホットハウス

令和2年度の事業再編を受け、小山から場所を移した畑事業は、東野と守山の2箇所で、用途を分けて運営してきたが、作業も一定の安定を得て、定番だった野菜に加えて、新たな野菜にも取り組んできた。また、休止していた作業も可能な物から再度取り組みを始めている。小山から移った加工部門もメンバーの活動に安定とチャレンジが加わり、より活動の幅が広がりつつある。内職・自主製品の作業もコロナ禍に関わらず、受注の増えた物もあり、また、新たな作業への取り組みも広がりを見せている。同様に施設外就労においても安定とチャレンジを重ねることで、周囲からの信頼も高まり、メンバーが働くことの自信や安定感を深めてきている。同時に職員体制としては各部署の業務分担や複数スタッフ体制を確立するための業務研修の機会をできるだけ確保して業務・情報の共有を進めることができた。

今後もコロナ禍の中であっても「どうすればメンバーさん達の仕事や日常を継続して守って行けるか」また、「いかに意味のある取り組みを重ねていくか」を念頭に、当施設に求められている「オリーブならではの仕事のあり方・安心して集える場所の意味」を探求していくとともに、どの部署も複数スタッフで支え合える安定した職員体制を築いていきたい。

特定計画相談支援事業所 オリーブ相談支援事業所

B型やサロン業務との兼務の中で、連年通りの相談支援業務を行うことが出来た。担当のスタッフ以外のもう1名スタッフに研修を受けてもらい、訪問への同行等、相談支援業務と一緒に従事し、相談支援専門員の育成を行った。圏域内の他の相談支援事業所と必要に応じ連携を行った。

共同生活援助 グループホーム小山の家

4月より新規職員を採用し、グループホーム業務に従事してもらい、安定した支援が出来るように、情報共有や相談体制等を整えた。一定の基盤を整えた後、B型のメンバーの受け入れや医療機関や地域生活支援センター等の他機関との連携を進め、新しいメンバーの受け入れを適時行い、5名の入居者となった。また、年度末にはサテライトの移転を具体的に進め、一人暮らしへ向けた支援も進めた。また、オリーブや他のB型事業所、訪問看護事業所等と連携し、日々の体調や病状の変化等の共有を行った。

自立生活援助 自立生活援助事業所小山の家

事業実績なし。

こころのふれあい交流サロン るまんやましな

コロナの対策を徹底し、当事者と地域住民の交流を行った。歌のサロンや絵画教室等、人が集まる催しは実施出来なかったが、その中でも閉めることなく活動を続けた。年度後半より、京都市よりサロンの再編の話が上がり、事業目的に引きこもり支援等が盛り込まれることになった、スタッフ間でミーティングを重ね、これまで通りの活動を中心にサロン業務を継続することを確認した。自治連や社協等の地域の関係者に実行委員になっていただく実行員会への委託形式は今年度で終了。

■基本方針

① 人材の育成

4月より新規職員を3名採用し、法人内各事業所に配置、それぞれの場所で、育成・定着に努めた。サービス管理責任者の現任研修に2名、相談支援専門員の研修に1名参加し、従事できる人材の育成・確保に努めた。

各事業所ともミーティングや情報共有の場を設定し、業務理解を促し、相互に業務に従事する機会を設けた。

② 報酬改定への対応、事業体系の整理

B型の新しい報酬体系は選択せず、これまで通りの工賃による報酬体系を継続した。相談支援、グループホームも従前通りの報酬体系を継続した。作業内容や支援の中身で個別のニーズへ対応した。

③ 対外業務の再開（社会就労センター協議会、こころの健康を考える会、施設協等）

地域の社会資源の理解や地域福祉の推進、行政の同行把握等を目的に、スタッフ間で分担をして各ネットワークへ参加した。またその情報をスタッフ間で共有し、法人全体への還元に努めた。

④ 適切な法人運営

役員の改選を行い、各事業の代表者を役員とし、安定した法人運営の基盤の整備に努めた。中長期計画の見直しは出来なかったが、理事会や評議員会の運営を通じ、現在の業務理解や地域のニーズ把握に努めた。

⑤ 感染症対策

昨年度同様、三密の回避、検温や手洗い、消毒等を徹底し、施設内でのコロナウイルスの蔓延防止に努めた。また、協力医療機関である里地会クリニックと連携し、ワクチン接種を希望メンバーに受けてもらった。陽性者が数名おられたが、事業所内での感染の可能性は低く、閉所等には至らなかった。メンバーが安心して通所できるよう、できうる限りの感染症対策を行った。

令和3年度 オリーブホットハウス 事業報告

■活動内容

- (1) 就労支援事業
各部門の報告を参照。
- (2) 就労支援
ハローワークやジョブパーク、他事業所等へ同行支援、相談支援やサロンと合わせて就労したメンバーに対する相談援助を行った。
- (3) 地域ボランティア清掃
コロナウィルスのため中止。
- (4) メンバーミーティング
感染状況に応じ、実施。開催出来ない時は、朝礼や作業場等で情報共有を行った。
- (5) レクリエーション
別表参照。
- (6) 教室活動・文化活動
コロナウィルスのため中止。
- (7) 給食
感染症対策（お弁当箱、消毒、パーテーション等）の上で、月・木・金に提供。調理を阿咩さんにお願ひし、こちらで小分けして提供。新しいスタッフを直接雇用した。
- (8) オリーブだより、情報公開・情報発信
オリーブだよりは、年2回発行。
HPのリニューアルは打合せのみで、公開までは至らず。
- (9) 地域ネットワーク
山科こころの健康を考える会、山科地域福祉推進委員会、京都社会就労センター協議会、京都精神保健福祉施設協議会（障害支援区分審査会）へ参加。
- (10) 実習生・ボランティア受け入れ
 - 精神保健福祉士養成
京都府立大学：6月7日～6月25日
大阪保健福祉専門学校：8月4日～8月23日、2月8日～2月28日（2名）
佛教大学（通信課程）：12月1日～12月23日
佛教大学：1月11日～1月21日
京都ノートルダム女子大学：3月1日～3月25日
 - 精神看護実習
京都第二赤十字看護専門学校：新型コロナウィルスのため中止
 - ボランティア
地域住民

(12) 地域交流

ランチケアやフリースペース事業等はコロナウィルスにより中止。

(13) 業務委託

京都市こころのふれあい交流サロン実行委員会事務局の受託。会計指導を中村修二税理士事務所へ委託。

(14) 評議員会・理事会の開催

○評議員会

定時評議員会 決議の省略：令和3年6月25日

第1号議案 令和2年度決算案

第2号議案 理事の選任案

○理事会

第1回理事会 令和3年6月4日（金） 19：00～

第1号議案 令和2年度事業報告案

第2号議案 令和2年度決算案

第3号議案 新評議員の選任案

第4号議案 新役員（理事・監事）の選任案

第5号議案 新評議員選任・解任委員の選任案

第6号議案 評議員選任・解任委員会の招集事項（日時、場所及び議題等）

第7号議案 評議員会の招集事項（日時、場所及び議題等）

報告事項

職務執行状況報告、社会福祉充実計画、サロン事業報告他

第2回理事会 決議の省略：令和3年6月25日

第1号議案 理事長の選任

第2号議案 業務執行理事の選任

第3回理事会 令和4年3月17日（木） 18：30～

第1号議案 令和4年度事業計画案

第2号議案 令和4年度予算案

第3号議案 サロンについて

第4号議案 虐待防止検討委員会について

第5号議案 身体拘束適正化検討委員会について

報告事項

理事長、職執行理事の業務執行状況報告、コロナ対策他

■ 年間行事

	レクリエーション・行事	出展・販売
4月	春を感じる野外レク (岡崎公園、京都市動物園)	
5月		
6月	雲の切れ間にB・B・牛 (日野野外活動センター)	オーガニックマーケット
7月		オーガニックマーケット
8月		
9月		
10月	一泊旅行(大原)	
11月	映画&くら寿司(TOHO シネマズ二条)	つながる市
12月	忘年会	オーガニックマーケット
1月	新年会・初詣	ふれあい作品展
2月		
3月	春のうららウォーキング (西本願寺、中央公園、東野公園)	オーガニックマーケット フェアトレードマーケット

●登録者数 50名(令和4年3月31日時点)

平均年齢 50歳 男性29名(58.0%)、女性21名(42.0%)

●登録 7名

保健センターより紹介	2名
医療機関より紹介	2名
GHより	2名
サロンより	1名

●退所 3名

他施設	1名
家業手伝い	1名
利用意向なし	1名

●利用者数 ※別紙

●月平均通所者数 24.5名 (24.6名)
東野 20.5名 (20.6名)
醍醐寺 4.6名 (4.8名)

●平均工賃

2年度	人数	金額	平均		3年度	人数	金額	平均
4月	35	458,996	13,114		4月	36	533,973	14,833
5月	34	444,065	13,061		5月	35	476,242	13,607
6月	36	504,819	14,023		6月	36	526,167	14,616
7月	36	512,910	14,248		7月	35	511,276	14,608
8月	34	470,932	13,851		8月	36	454,847	12,635
夏期	40	194,500	4,862		夏期	41	204,000	4,975
9月	36	478,407	13,289		9月	35	539,230	15,407
10月	37	522,014	14,108		10月	37	438,605	11,854
11月	39	466,826	11,970		11月	36	430,974	11,972
12月	40	473,221	11,831		12月	35	441,926	12,626
冬期	42	404,250	9,625		冬期	39	414,800	10,635
1月	40	465,159	11,629		1月	33	424,354	12,859
2月	36	450,390	12,511		2月	36	443,155	12,310
3月	38	554,297	14,587		3月	35	480,720	13,735
合計	441	6,400,786	14,514		合計	431	6,320,269	14,664

@¥394

@¥396

●年間総作業時間 16158.5時間 (16233時間)

●月平均作業時間 1346.5時間 (1351時間)
東野 1027.4時間 (1033.7時間)
醍醐寺 319.2 (328.2時間)

■就労支援事業

	令和2年度		令和3年度	
	金額(円)	構成比	金額(円)	構成比
年間授産収入	9,613,804	100.0%	9,538,393	100.0%
内訳				
(1)畑	1,360,607	14.2%	612,606	6.4%
(2)自主製品	517,954	5.4%	656,369	6.9%
(3)内職	404,723	4.2%	391,858	4.1%
(4)公園清掃	498,960	5.2%	498,960	5.2%
(5)春日丘	54,000	0.6%	0	0.0%
(6)サロン	50,000	0.5%	32,850	0.3%
(7)醍醐寺	5,940,000	61.8%	5,940,000	62.3%
(8)パン	783,250	8.1%	1,405,750	14.7%
(9)その他	4,310	0.0%	0	0.0%

※その他 ヤマト運輸手数料 etc

(1) 内職

コロナの影響で畳紙が届かず預かりが不安定になる時があったが、他に大きな影響はなく、目標売り上げはほぼ達成できた。ほっとはあとセンターからの紹介で、山科にある株式会社ヤマシナさんでネジの検品の仕事を頂き、7月より作業を開始した。しかしながらお守りの仕事数が多かったこともあり、ネジの納品時期が不安定になっていた。そのため納品数を増やしていたお守りの作業数を半分に減らした。お守り作業が週の半分以上をしめることも多く、細かい作業はメンバーも負担になることも多かった。また一方でどんなお守りが来るかが楽しみの一つになっている方もいるため、出来る範囲内で継続して作業はしていく。来年度は(株)ヤマシナに計画的に納品頻度をして、より良好な信頼関係を作っていきたい。また単発の仕事もほっとはあとセンターから頂き、選挙ポスターのシール貼りを行った。こういった単発の仕事は納期があり急ぐが、みんなで協力することで作業に入るメンバーの中で一体感が生まれ、達成感を感じられる機会にもなった。

またメンバーによっては預かった袋やお守りの扱いで、拘りが強かったりすることもあり、他のメンバーのストレスになることがあった。1人で完結すれば気持ちは楽かもしれないが、作業場ではいろんな工程をそれぞれ出来る範囲で担いながら完成させていくことがほとんどである。能力にも差があり、時にはメンバーからの不満も聞かれた。その度に、それぞれが一生懸命していることを伝えながらも、メンバー個々が大事にしていることと向きあい、それぞれに対応することを心がけた。メンバーは作業をするだけでなく、集団の中で感じることを、例えば他者に合わせたり、納得いかない気持ちに自

身が向き合ったりしている。何かあった際のメンバーの言葉には敏感に耳を傾け、説明はしっかり行うことをスタッフ同士で共有してきた。

作業が4つ（畳紙、袋、お守り、ネジ検品）と増えたが、納期が急ぐものや、段取りをする中でメンバーに仕事を選んでもらえる機会が少なかった。また大曜さんの袋に関しては、コロナの影響で出来る事業所が減っており、協力してほしいと納期を急ぐ仕事が増えた。その中でメンバーには、先方がオリーブを頼りにして信頼していることを意識して伝えるようにした。また納品時の積み下ろしでは協力するメンバーが増え、先方からも感謝している話をメンバーに直接されるなどの関わりが見られた。

作業場では日によってむらはあるものの密になることも少なく、1階2階で分かれて作業が出来ていた。新しく通いはじめた内職作業をするメンバーは、休むことや通所日数が少なかった。その為通所した際は意識した声かけをし、スタッフ間で話し合った。他のメンバーとの会話など、時間の経過と共に少しずつ慣れてきている。

売上：391,858円

498,960円（公園清掃）

（2）自主製品

昨年よりも出店の回数やほっとはあとの売上が増えたことで売上は達成できた。出店では三井寺のオーガニック・マーケット・しが、無印のつながる市、フェアトレードマーケットに出店し、たくさんの方に作った製品を手にもしてもらえた。コロナが収まってくるとをみこしながら、計画的にほっとはあとに納品した。自主製品、織りをするメンバーは少ないながらも、さをり生地やマフラーのデザインを自分でしたり、縫製品でも布選びから完成までできるメンバーが増えている。メンバー同士で知っていることを教え合う様子見られた。製品が完成した時は、その達成感や出来栄を一緒に共有するよう意識し声かけをしてきた。出店時に売れた際は、作って売れる喜びを感じてもらえるように、その時の様子を積極的に伝えるよう努めた。サークルボールの発注はコロナの影響で8月以降注文はなかった。敬老ショールに関しては例年通り30枚納めることが出来たが、織り手も減っており、メンバーによっては規定通りに作らないといけないという決まりから、こちらが求めることも多く、しんどくなる方もいた。来年度は枚数を見直し取り組んでいきたい。

また新しい仕事として区役所のこどもはぐくみ室から、エコバッグ200個の発注があった。さをり生地でこどもが喜びそうなデザインに切り、ワンポイントでエコバッグに縫いつけた。先方からは感動したという連絡を頂き、一緒に作ったメンバーも喜んでいる様子が見られた。少しではあるが内職のメンバーもデザインに参加されるなど、他の作業場のメンバーにも製品を見てもらうことができた。

また継続してボランティアの方が2名来られている。自主製品をされているが、内職

メンバーとの会話も多く、休憩中の会話も多く楽しみにしているメンバーもいる。スタッフとは違った位置から話してくれたり助言をして下さり、違った風が入る大切な時間となっていた。

売上：656,369円

(3) 農園

① 畑の運営、管理と作業の機会作り

年間を通じて、各メンバーの作業への希望、体調等を配慮して、それぞれに適した作業を出来る限り提供してきた。また経費を下げる為と野菜により親しむ機会を作る為に種からの栽培を増やし、メンバーに携わってもらった。

夏季の東野の畑では、定植の準備として肥料まきや畝立て、整地、その後苗を植えてから水やり、支柱立て、芽かき、草引き、そして収穫等、殆ど全ての作業をメンバー主体で行った。時に35度を超える猛暑での作業であったが、殆どのメンバーが夏季を無事に乗りきり通所と作業を継続された。今後の課題になるが、夏野菜の収穫が始まる前は提供できる作業が草引きに限られる時期があった。今後、収穫が絶えないよう、考えていきたい。夏野菜が終わってからは秋、冬のために主として葉物野菜を作付し、夏季と同様にメンバー主体で作業を行った。

守山の畑では広い耕地を活かし、のびのびと体を動かす機会にした。昨年と同じくさつま芋や大根、日野菜を作付し、新規にはピーマン、胡麻、鷹の爪、落花生を作付した。ほぼ毎週火曜日にメンバーと共に作業に出かけ、収穫や必要に応じて草刈等の畑の世話も行った。日野菜については前年度よりも作付が少なくなってしまう売上が凡そ半分になった。逆に大根の作付が必要以上に多くなり、年明けに関連会社に販売をお願いし販路を増やしたが、それでも残ってしまった。今後はそれぞれの野菜の適した作付量を検討し、豊作の際は早めの販路の検討等を考えたい。

さつま芋について、苗の定植はスケジュール的にメンバーの参加が難しくスタッフだけで行った。収穫までの草刈はメンバーも携わった。収穫は例年通りメンバー中心で行い、終盤では火曜以外の曜日に作業日を設定し、いつもの守山作業に従事するメンバー以外にも参加してもらった。収穫した芋は焼き芋の加工を中心に生鮮野菜としての販売や昼食の味噌汁の具材として利用した。収量としては丁度よかった。

収穫した野菜はメンバーが袋詰めまで行い店頭で並べる。それが売れる事でメンバーのやりがいや喜びに繋がっている。また生鮮野菜として販売するほか、加工でパンの具材として活用した。紫蘇はサロンの紫蘇ジュースとして夏季にお客様にとっても喜んでもらえた。大豆で味噌作りをした際は東野のメンバー全員に呼びかけ希望者に参加してもらった。

② 冬期作業の拡充

冬から春までの作業として、当初の予定していた大豆、小豆、落花生、胡麻、ひまわり、鷹の爪を栽培した。ほとんどの物が作業に適していたが、ひまわりの種は予想以上に小さく、メンバーの作業としては難しかった。鷹の爪と胡麻は次年度の雨天時の作業として保管できた。乾物などの保存するものではないが、今年初めて栽培した主として花芽を食べるアスパラ菜は12月中旬から3月初旬までの約3ヶ月間収穫を続けることができ葉物以外の緑の濃い野菜を冬期に販売する事ができよかった。

売上：612,606円

(4) 加工（製パン・野菜加工）・店舗

【加工作業】

令和3年度の動きとしては、引き続きコロナ禍の中、出店販売の機会は少なかったが、その中でも、より農園の作物を活かしたオリーブらしい商品作りや、メンバー主体の商品作りに取り組んできた。カップのシフォンケーキに改良を加え、BP無添加のホール焼きのシフォンケーキを焼き、手づくりのクリームをサンドする形態をメンバーと相談をしながら試作し、今では出店時の人気商品となっている。また畑で収穫された野菜を季節に合わせてピザにトッピングした「畑のピザ」もメンバーの工夫を活かしながら味付けに変化をつけている。こちらも人気商品となっており、いずれもメンバーの自信と意欲に繋がっている。その成果として、唯一の定期販売である保健センターでは非常に売上が堅調で安定している。同時に、パン生地の仕込み作業も複数名が習熟し、しっかりとこなせるようになったことも大きな収穫だった。

また、野菜を使った漬物作りでもメンバーが中心になって製造に関わり、昼食ごとにラップで人数分を分包して提供する等、施設内で喜んで頂けるように心をくんでいる。そういったことを通じて、食べ物を作り、食べて頂き、喜んでもらえることにやりがいを感じている様子である。夏は定番のシソジュースを何度も仕込み、サロンで好評を得た。

上記の様に畑の作物を利用した商品が多いことから、畑メンバーへの報告や、連携にも力を入れつつあり、今後の展開が楽しみである。

一方、作業内容が専門的であるため、作業日数の少ないメンバーにどれだけの作業を習得して頂き、定着してもらえるかという課題が残っている。

【職員体制】

複数職員の連携や作業スキルの習得に関しても、一定の進展があり、今後につなげて行く素地ができつつある。現場の作業やメンバーの事を複数のスタッフが把握し、相談し合える事が大切であると考え、引き継ぎ・協働の機会を作ってきた。

【店舗業務】

店舗は大きな変更なく運営してきたが、メンバーの障害特性や社会性の習得と言った要素を多く含んでいるため、デリケートな支援を必要としている。今後も職員間で個別のケースを検討しながら、就労場所としての支援を続けていく。

売上：1,405,750 円

(5) 醍醐寺

醍醐寺境内、トイレ、風呂の清掃を継続して請け負い、安定的に作業を提供することができていた。一ヶ月平均作業時間は 447 時間であった。

各々の事情で作業を休むメンバーがいても、全員でしっかりフォローし、必要とされている業務に穴をあけることなく、これまでと変わらず醍醐寺の職員の方々とコミュニケーションをとり、相談し協力し合って取り組むことが出来ていた。

今後も現行メンバーが醍醐寺での継続していくことを視野に入れ、より負担なく、スムーズに、よい清掃を行えるようメンバー・スタッフでアイデアを出し、話し合いながら、作業に関する改善を続けていった。またその中で、メンバーにとって無理な取り組みとならないように体調確認、作業は安全第一とする声掛けを行い、必要性があると判断したときは医療機関への受診を促した。

繁忙期の休日出勤依頼に関しても、長期的な体調の維持を優先し、無理なく取り組めるメンバーで対応した。また通常の業務においても体調の優れないメンバーは、無理をせず休みを取ることが出来ている。

営繕班ではこれまで継続的に取り組んできた清掃内容に加え、新たに担当が可能である清掃箇所に関して管理課に提案し、了承を得、安全面に十分留意した上で取り組んだ。メンバーは、初めての事に対して戸惑いを見せながらも、全員協力し合ってしっかりと取り組み、やりがいを感じる事ができた。

トイレ班では、体調面の事情でメンバー一名の移動があったが、営繕班から必要な人員を配置し、滞りなく清掃を進める事が出来た。

令和 3 年度は常勤 2 名、アルバイト 2 名で現場を主に担当することが出来、より目が行き届き、職員間で日日のメンバーの様子をしっかりと共有することが出来ていたように思う。

年度内に新メンバーが入ってこられることはなかったが、作業体験会を設定したり、メンバーミーティングでメンバーが作業の様子を皆に伝えることを続けたり、新しいメンバーをいつでも待っているというメッセージを伝える取り組みを続けていた。

メンバーが日々の作業に責任感を持って意欲的に取り組み、全体ミーティング、レクレーションにも、しっかり参加し、楽しむことが出来ていた一年であった。

売上：5,940,000 円

(6) サロン

喫茶業務を中心に週 4 日の業務を行った。午前中は主に地域の高齢者の方達が来られている。サロンへいく事が唯一の外出の機会になっておられる方も居る。自分たちの近況や世間話をしたり、介護の合間の息抜きに使われている。午後は、地域の当事者やオリーブのメンバーの来所が増える。自分の通っている作業所の話しや、生活の話しをお互いに聞き話す事でリフレッシュ出来ている。又、作業として入っていたメンバーは 1 名、週 1 回 2 時間の作業をされていた。主治医と相談し体調に響かないよう作業をされている。就労先のシフトに合わせ休みを取られる日がある。今後も興味のあるメンバーに、自分の力を活かす場として活用してもらえようすすめて行く。

売上 : 32,850 円

合計 : 9,538,393 円

令和3年度 オリーブ相談支援事業所 事業報告

■基本方針

①サービス利用計画の作成

メンバーと個別面談し、オリーブホットハウス、グループホーム小山の家の利用者のサービス等利用計画を作成した。また、1人暮らしの方や様々なサポートが必要な方に対し、居宅介護事業所や訪問看護ステーション等の関係機関と連携した。

②継続的なモニタリング

サービス利用計画作成後、必要かつ適切なサービス提供が行われているかを評価するため、面談や訪問、関係者会議等通じ、継続的なモニタリングを行った。

③訪問支援

自宅への訪問や担当者会議等を通じ、日常生活の困り事等を本人及び家族等からヒアリングし、関係機関と情報を共有する等の連携を行った。

④相談支援

日常生活全般の相談を受け、B型の枠組みで支援を出来ることはオリーブホットハウス内で共有し、他のサービスが必要な場合は、行政や他機関と連携する等の支援を行った。

⑤専門性の高い相談支援体制整備

経験の長い職員が現在相談支援専門員として従事することで専門性の高い支援を継続し、必要に応じ他の地域生活支援センター等と連携を行った。また、新たな相談支援専門員の育成に努めた。

■事業内容

(1) 支給決定時

- ・支給決定又は支給決定変更前に、サービス利用計画案を作成。
- ・支給決定又は変更後、サービス事業者等との連絡調整、計画の作成。

(2) 支給決定後

- ・厚生労働省令で定める期間ごとに、サービス等の利用状況の検証を行い、計画の見直しを行う（モニタリング）
- ・サービス事業者等の連絡調整、支給決定又は支給決定の変更に係る申請の勧奨。

利用支援 19 件/継続支援 35 件

令和3年度 グループホーム小山の家 事業報告

■基本方針

① 地域生活の拠点

現住所にて1年間通じグループホームの運営を行った。個別のニーズに応じ、金銭管理、服薬管理、家族との連絡調整等、地域生活の継続のための支援を行った。また、コロナ感染対策として、手洗い、手指の消毒、パーテーションの設置、定期的な消毒等を行った。

② 地域移行の推進

親亡き後の生活を見据え、昨年度より体験入居をされていたオリーブのメンバーさんが8月より入居され、12月に退去された。

ご家族との同居が難しい1年以上の長期入院のメンバーさんの外泊による体験入居を6月より実施し、9月末より正式に入居された。

上記同様、ご家族との同居が難しく、1年以上入院されているメンバーさんが1月より体験入居をされた。

③ 日中支援の拡充、訪問支援

毎日日中活動先に通所出来る方ばかりではないので、B型、サロン等とも連携し、必要に応じ日中支援を行った。また、今後の一人暮らしを目標にサテライトの移転の準備を進めてきた。

④ 夜間支援及び緊急時の対応

夜勤職員は配置し、夜間時間帯の見守り、支援を行った。また、その際の連絡体制の整備をし、スタッフが安心して業務にあたる体制を整えた。

⑤ 他機関連携

上記②の新しいメンバーを受け入れる際に、医療機関や地域生活支援センターと連携し地域移行を進めた。また、メンバーの状態に合わせて、訪問看護ステーションや支援センター等と情報共有を行い、病状や生活リズムの安定に努めた。

■事業内容

(1) 共同生活援助計画の作成 (2) 相談援助 (3) 食事の提供

(4) 健康管理・金銭管理 (5) 緊急時の対応

(6) 日中活動の場等との連絡・調整

(7) 月1回程度のレクリエーション

4月：ドライブ&天下一品、6月：スシローテイクアウト、7月はま寿司、

8月：ピザテイクアウト&パラ観戦、9月モス&音楽鑑賞、

10月イオンモール京都&しゃぶしゃぶ、11月石山寺&スーパー銭湯、

12月忘年会、1月初詣&ガスト

(8) 余暇活動の援助 (9) 定期的な巡回訪問